予科練平和記念館
開館15周年記念
特別展

ペンを剣にかえて

海軍予備学生の軌跡

真継不二夫『海軍予備学生』

2025（令和7）

3/15（土）▶6/15（日）

■開館時間
午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

■休館日
月曜日（祝日の場合は翌日休館）

■観覧料
大人700（団体560）円
小中高生400（団体320）円

■会場
予科練平和記念館
20世紀ホール

詳しくはこちら

予科練平和記念館
YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM

15th
Anniversary Exhibition

予科練平和記念館開館15周年記念特別展 『ペンを剣にかえて―海軍予備学生の軌跡』

海軍飛行予科練習生たちが日夜訓練に励んでいた土浦海軍航空隊。“予科練教育のメッカ”とも言われる同航空隊ですが、同時に“予備学生教育のメッカ”でもあったことはあまり知られていません。

予備学生とは、大学などの高等教育機関から海軍の幹部を養成する制度のことであり、1934（昭和9）年に制度が発足した当初は予科練と同じく志願を募る形での募集でしたが、戦局が厳しさを増した1943（昭和18）年には学生の徴兵猶予が停止され、徴兵された二十歳以上の学生の中から大勢の予備学生が選抜されました。同年10月に明治神宮外苑競技場（現国立競技場）で挙行された出陣学徒壮行会の様子は、志半ばでペンを剣にかえざるを得なかった学徒たちの姿を今に伝えています。

彼らは短い期間で厳しい訓練を経て第一線へと赴き、多くの方が若くして亡くなられました。

2025（令和7）年は戦後80年の節目の年です。予備学生制度創設から90年以上が過ぎた今、改めて彼らの姿を多くの方に知っていただき、戦争と現在の平和について考えていただけましたら幸いです。

真継不二夫 MATSUGI Fujio

1903（明治36）年京都府亀岡市生まれ。本名は藤三郎。独学で写真を学び、日本光画協会に参画。写真雑誌の月例や懸賞、写真美術展への出展などで多くの賞を獲得。1931（昭和6）年、婦女界社写真部長に就任。1935（昭和10）年フリーランスのカメラマンに転身。1942（昭和17）年より海軍特別報道班員として海軍予備学生、海兵団等を撮影・取材。戦後は造形的なヌード表現で高く評価され、アマチュア写真の指導にも携わった。1984（昭和59）年逝去。

写真集・著書

『芸術写真作画の実際』玄光社、1933（昭和8）年
『ライカ撮影全集』玄光社、1938（昭和13）年
『女を写す』玄光社、1939（昭和14）年
『報道写真への道』玄光社、1942（昭和17）年
『海軍兵学校』番長書房、1943（昭和18）年
『美の生態』大泉書店、1948（昭和18）年
『美の生態Ⅱ』双芸社、1950（昭和25）年
『ああ江田島海軍兵学校』大泉書店、1964（昭和39）年
『学徒出陣―海軍予備学生の記録』朝日新聞社、1966（昭和41）年
『海軍特別攻撃隊の遺書』KKベストセラーズ、1971（昭和46）年
ほか

関連イベント

●開館15周年記念講演会

「予科練と出会い、研究し、伝える」

2025（令和7）年2月2日（日）14:00～

講師：清水亮氏（慶應義塾大学専任講師）

●担当学芸員によるギャラリートーク

2025（令和7）年3月15日（土）10:30～　14:00～

2025（令和7）年5月17日（土）10:30～　14:00～

●大人向け零戦二一型実物大模型搭乗体験

2025（令和7）年5月24日（土）予定

※各イベントの詳細は公式ホームページ、X、Facebook等でお知らせします。

交通アクセス

自家用車を利用

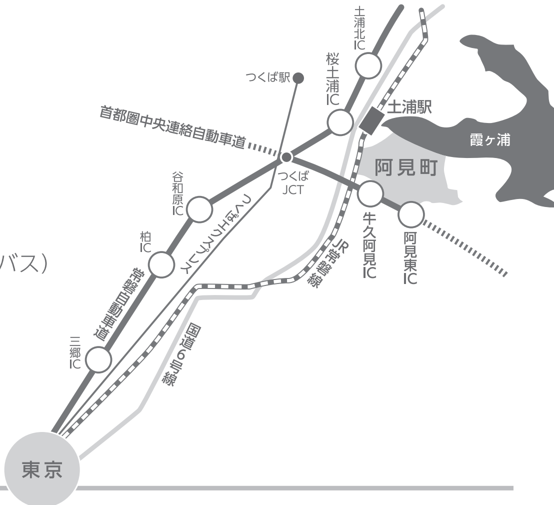
・常磐自動車道 桜土浦ICから
　国道125号バイパスを利用　約15分

・首都圏中央連絡自動車道（圏央道）
　牛久阿見IC・阿見東ICから約15分

JR常磐線を利用（土浦駅西口からバス）

・JRバス「江戸崎方面」行き
　「阿見坂下」停留所下車　徒歩3分

・関東鉄道バス「阿見中央公民館」行き
　「阿見坂下」停留所下車　徒歩3分



予科練平和記念館
YOKAREN PEACE MEMORIAL MUSEUM
〒300-0302　茨城県稲敷郡阿見町大字廻戸５番地１
Tel 029-891-3344　Fax 029-888-2470
e-mail yokaren-ofc@town.ami.lg.jp